

ブラジル, ペルナンブーコ州レシーフェの
カルナヴァルにおける行政機関の取り組み
—— コンテストならびに文化教育実施本部による
「2010年度活動報告書」を手掛かりとして ——

神戸 周*

体育学分野

(2014年6月30日受理)

KAMBE, C.: A Study on an Administrative Action in Carnival of Recife, Pernambuco, Brazil —An Analysis of the 2010 Carnival's Report by the Management Headquarters of Contests and Cultural Education—. Bull. Tokyo Gakugei Univ. Division of Arts and Sports Sciences., 66: 51-61. (2014)

ISSN 1880-4349

Abstract

This was a study on an administrative action in carnival of Recife, Pernambuco, Brazil. In this study, using as a clue a report which had been written after the 2010 carnival by the Management Headquarters of Contests and Cultural Education (*Núcleo de Concursos e Formação Cultural*) set up inside the Cultural Foundation of Recife City (*Fundação de Cultura Cidade do Recife*) which, cooperating with the Cultural Department of Recife City (*Secretaria de Cultura Cidade do Recife*), undertook the promotion of cultural administration and the preservation of cultural properties, were made clear the activities of the headquarters, and besides, were pointed out some issues which those activities would necessarily bring about.

According to the report, the activities of the headquarters were divided in two parts: 1) contests and 2) cultural education. The former were composed of four contests: 1) of the carnival king and queen, 2) of the carnival group's flag carriers, 3) of the *frevo* dancers and 4) of the carnival group's parades. On the other hand, the latter consisted of three factors: 1) short courses for the judges of the carnival group's parade contests, 2) training sessions for the mass media and the emcees of the carnival group's parade contests, and 3) publication of the Recife's carnival handbook.

In the process of examining these activities, emerged the following three issues: 1) Would be spectacle the carnival group's parades? 2) How would be respected the autonomy of carnival groups? and 3) How would be transmitted the carnival group's activities to the next generation? Between carnival groups and Recife City there was a relationship that the latter had provided the former with a considerable amount of money as carnival parade subsidy, and so in this study, it was indicated that the relationship would have no small influence on the carnival group's activities in the future. Because this study had depended on the material of Recife City's side, the information of carnival groups' side had been hardly reflected. In order to make an estimate of the carnival group's activities from now on, it would be necessary to give careful attention to the voices of the carnival groups.

Keywords: Brazil, Carnival, Administrative Action

Department of Theory of Physical Education, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

* 東京学芸大学 (184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1)

要旨: これはブラジル連邦共和国ペルナンブーコ州レシーフェのカルナヴァルにおける行政機関の取り組みに関する一考察である。本研究では、レシーフェ市文化局 (Secretaria de Cultura) と連携しながら文化行政の推進および文化財の保護等の任務に当たるレシーフェ市文化財団 (Fundação de Cultura Cidade do Recife) の内部に設置された「コンテストならびに文化教育実施本部 (Núcleo de Concursos e Formação Cultural)」が2010年のカルナヴァル終了後に作成した活動報告書を手掛かりにしてその活動実態を明らかにするとともに、その過程で浮かび上がる問題の所在を指摘することを試みた。

この活動報告書によれば、当該組織の活動内容はカルナヴァルに伴うコンテストの実施と文化教育活動の実施とに大別される。前者はカルナヴァル期間前に開催される「カルナヴァルの王と女王のコンテスト」「団体旗運搬者のコンテスト」「パッソの踊り手のコンテスト」およびカルナヴァル期間中に開催される「カルナヴァル団体のコンテスト」の四つで構成される。一方後者は「カルナヴァル団体のコンテストの審査員のための講習会」「報道関係者およびカルナヴァル会場の司会者のための研修会」および「カルナヴァル入門書の出版」の三つで構成され、いずれの活動も上記「カルナヴァル団体のコンテスト」に向けた準備としてカルナヴァル期間の直前に実施される。

以上のような活動内容を踏まえ、本研究では以下三つの項目を問題の所在として指摘した。すなわち「民衆芸能のスペクタクル化」「カルナヴァル団体の主体性」および「民衆芸能の次世代への継承」である。民衆芸能の担い手であるカルナヴァル団体とレシーフェ市との間には、後者から前者への活動助成金の支給を伴う関係が機能しており、そのことがこれらの問題の将来に少なからぬ影響を及ぼすと考えられる。なお本研究は後者側の資料に依拠したものであり、前者からの情報はほとんど反映されていない。レシーフェの民衆芸能の将来に何らかの方向性を示そうと思えば、その実践者たるカルナヴァル団体の率直な声に耳を傾ける地道な作業が必要であろう。

1. はじめに

ブラジル連邦共和国ペルナンブーコ州の州都レシーフェは、広大な南米大陸のほぼ最東端に位置し、2010年時点で153万人余り¹⁾の人口を有する同国北東部屈指の商業港湾都市である。この地のカルナヴァル^{注1)}の特色を文化人類学者の荒井芳廣²⁾は「民俗のモザイク」と表現し、その意味を「それぞれ別の歴史的起源と社会的基盤を有し、独自の様式を持つカルナヴァルの行列の種類がリオ [デジャネイロ] やサルヴァドール^{注2)}に比して特に顕著」なことでありと説明する。荒井が言及した行列の多様性とは、具体的にはその特徴によってクルーベ・デ・フレイヴォ (Clube de Frevo) やマラカトゥ・デ・バッキ・ヴィラード (Maracatu de Baque Virado) など10数種類に分類されるカルナヴァル団体 (Agremiações Carnavalescas) による街頭行進を指す (本研究ではその分類に「団体種別」という用語を充てる)。

カルナヴァルの日程はそれぞれの年の復活祭 (春分以降の最初の満月に続く日曜日に祝われる) を遡って決定される。復活祭に先立つ日曜日を除いた40日間を四旬節と呼び、これは灰の水曜日に始まる。この直前の日・月・火の3日間が宗教暦上のカルナヴァルの祝祭である。復活祭の移動に伴い、カルナヴァルの祝祭も2月上旬から3月上旬にかけての時期を毎年移動する。本研究で取り上げる2010年は2月14日、15日、

16日がそれぞれにあたるが、レシーフェではその前々日の12日金曜日の夕刻に市が主催するカルナヴァルの開会式が執り行われるのを皮切りに、都合5日間がカルナヴァルの祝祭期間に設定された。レシーフェ市 (Prefeitura do Recife) の公表³⁾によれば、2010年のレシーフェのカルナヴァルへの外部からの訪問者数はおよそ70万6,000人 (平均滞在日数は7日間) であり、また経済波及効果 (輸送・宿泊・食料品・服飾品などに伴う) は4億1,500万リアル (およそ203億円)^{注3)}に及ぶ。この状況は当地のカルナヴァルが市民の祝祭であると同時に経済活動上極めて重要な観光資源でもあることを示しており、レシーフェ市はその運営に2,900万リアル (およそ14億2,000万円) の予算を計上した。

レシーフェ市が主管するカルナヴァル関連行事の中にはこの地の民衆芸能^{注4)}に関わる各種コンテストおよびカルナヴァルに向けた講習会等の教育活動も含まれており、その運営を担うのが「コンテストならびに文化教育実施本部 (Núcleo de Concursos e Formação Cultural)」である (以下これを「当該実施本部」と表記する)。この組織は、レシーフェ市文化局 (Secretaria de Cultura) と連携しながら文化行政の推進および文化財の保護等の任務を遂行するレシーフェ市文化財団 (Fundação de Cultura Cidade do Recife) の内部に設置されている。本研究は、2010年のカルナヴァル終了後に「当該実施本部」の手で作成された活動報告書

(Relatório: 以下これを「活動報告書」と表記する)を手掛かりにしてその活動実態を描出するとともに、それを通じて浮かび上がる問題の所在を指摘しようとする試みである。なお、216ページから成るこの報告書はレシーフェ市が運営する文化教育研究施設「カルナヴァルの家 (Casa do Carnaval)」^{注5)}の収蔵資料で、2011年8月に筆者が現地を訪問した折に複写して持ち帰ったものである。

2. 「当該実施本部」の活動実態

「活動報告書」によれば「当該実施本部」の活動内容は、コンテストの実施と文化教育活動の実施とに大別される。前者は、カルナヴァル期間前に開催される「カルナヴァルの王^{注6)}と女王のコンテスト」「団体旗運搬者^{注7)}のコンテスト」「パッソの踊り手^{注8)}のコンテスト」およびカルナヴァル期間中に開催される「カルナヴァル団体のコンテスト」の四つで構成されてい

る(本研究では冒頭三つのコンテストを「カルナヴァルに先立つ三つのコンテスト」と総称してその概要を表1にまとめた)。一方後者は「カルナヴァル団体のコンテストの審査員のための講習会」「[カルナヴァルの取材に訪れる]報道関係者およびカルナヴァル会場の司会者のための研修会」「カルナヴァル入門書^{注9)}の出版」の三つで構成され、いずれの活動も上述した「カルナヴァル団体のコンテスト」に向けた準備活動としてカルナヴァル期間前に実施される(それ故に本研究ではこれらの文化教育活動を「カルナヴァル団体のコンテスト」という脈絡に即して検討する)。

2. 1 カルナヴァルに先立つ三つのコンテスト

カルナヴァルに先立つコンテストの中でも「カルナヴァルの王と女王のコンテスト」は「団体旗運搬者のコンテスト」および「パッソの踊り手のコンテスト」とは明らかに開催の趣旨が異なる。後者二つのコンテストでは基本的に優勝者と準優勝者の選抜までが主要

表1. カルナヴァルに先立つ三つのコンテストの概要

コンテスト名		カルナヴァルの王と女王	団体旗運搬者	パッソの踊り手
目的		レシーフェのカルナヴァルの価値の高揚およびそのプログラムの活性化	レシーフェのカルナヴァル団体を構成するこれら無名の芸術家たちの称揚	フレーヴォのダンス、パッソを踊る無名の芸術家たちの称揚
参加条件		レシーフェ市内に居住している18歳以上の男女で、男は体重が100kg以上あること	年齢に制限はないが、演技に際しては正規の衣装を身につけること	5歳以上の男女で、演技に際してはバシスタまたはフォリアンの衣装を身につけること
参加登録	期間	2009年12月14日から2010年1月8日	2009年12月7日から2010年1月8日	2009年12月14日から2010年1月8日
	提出書類	身分証明書、納税者カード、居住証明書	身分証明書、納税者カード、18歳未満の場合には保護者の承認書	出生証明書または身分証明書、納税者カード、18歳未満の場合には保護者の承認書
	登録者数	王(11名)、女王(54名)	88名	183名
選抜方法	選抜期日	2010年1月12日(1次審査-面接) 2010年1月15日(計量) 2010年1月16日(2次審査-演技) 2010年1月23日(最終審査-演技)	2010年1月18日 (Caboclinhos, T.Índio, Maracatus B.S.) 2010年1月20日 (Maracatus B.V., Troças e C.Frevo, E.Samba)	2010年1月21日および22日(予選) 2010年1月24日(決選)
	選抜内容	男の優勝者に王、準優勝者に王太子、女の優勝者に女王、準優勝者に王太子妃の称号を付与する。	参加者を15歳以下と16歳以上に分類。E.SambaはMestre Sala(男)とPorta Bandeira(女)それぞれに優勝者と準優勝者を選抜。またE.Samba以外の団体種別には優勝者と準優勝者を選抜する。	参加者を年齢別に6つのグループに分類。それぞれのグループで男女別に優勝者と準優勝者を選抜する。新設のフォリアンというカテゴリーは男女別に優勝者のみを選抜する。
審査方法	審査員	1次審査(5名)、2次審査(7名)、最終審査(9名、レシーフェ市長を含む)	3名	3名
	審査項目	1) 知識-レシーフェの歴史、レシーフェのカルナヴァル、カルナヴァル団体などについて 2) 振付け一品の良さ、展開 3) 演技-態度、姿勢、優雅さ、創造性、興奮度 4) まとまり-個々の演技、集団での振る舞い	1) 振付け一品の良さ、軽快さ、展開 2) 演技-態度、姿勢、優雅さ、創造性、興奮度 3) まとまり-演技全体を通じてのまとまり	1) 振付け-多彩さ、連続性、音楽との調和 2) 演技一品の良さ、姿勢、興奮度
賞金		王と女王はそれぞれ10,000レアル。王太子と王太子妃はそれぞれ3,000レアル。	それぞれのカテゴリーの優勝者は、16歳以上1,000レアル、15歳以下800レアル。準優勝者は、16歳以上800レアル、15歳以下500レアル。	各グループの優勝者は年齢により1,000レアルから200レアル。準優勝者は600レアルから100レアル。フォリアンは優勝者に600レアル。
履行義務		本コンテストで選抜された4名は、予め計画されたカルナヴァル関連行事に出席する義務を負う。		本コンテストの優勝者と準優勝者でグループを結成し、カルナヴァル2010の舞台で演技を行う。

注) 2010年2月17日時点の為替相場(1米ドル≒1.83レアル、1米ドル≒90円)を基準にすれば、1レアルは約49円になる。

な課題であるのに対し、前者の場合、選抜された者たちにはその年のカルナヴァル関連行事^{注10)}で然るべき役割を果たすことが求められる(そして選抜された者たちが行事に参加するのをつつがなく進行させることも「当該実施本部」の重要な業務である)。カルナヴァルの王と女王はこの祝祭期間中のレシーフェを統治する象徴的な存在であり、表1に記載の「審査項目」に見られるように、その選抜にあたっては演技力に加えて知性が求められる。一方、団体旗運搬者とパッソの踊り手はレシーフェの民衆芸能を代表する二つの構成要素(登場人物)であると考えられる。表2には「パッソの踊り手のコンテスト」の参加登録者の内訳が記してある。小学校低学年から20歳以上の成人までのかなり細かな年齢別カテゴリーに加えてその参加登録状況からは、このコンテストが当地の住民にそれなりの重

表2. 「パッソの踊り手のコンテスト」の参加登録者数の内訳

年齢別グループ分け	男性	女性	計
Pré-Mirim (5歳から7歳まで)	4	7	11
Mirim (8歳から11歳まで)	12	34	46
Infantil (12歳から15歳まで)	18	36	54
Juvenil (16歳から19歳まで)	12	15	27
Adulto (20歳から35歳まで)	13	19	32
Master (36歳以上)	4	3	7
Folião e Foliã (年齢制限なし)	3	3	6
計	66	117	183

注) 登録者183名の中で30名の欠場者があった。

みづけをもって受け入れられている様子が窺い知れよう。

2. 2 カルナヴァル団体のコンテスト

カルナヴァル期間中に開催される「カルナヴァル団体のコンテスト」に向けた「当該実施本部」の準備活動に目を転じてみよう(表3にその概要をまとめた)。その内容は大きく「カルナヴァル団体対象の活動」と「カルナヴァル団体関係者以外への文化教育活動」に分けられる。色分けした表の薄いオレンジ色の枠内が前者に該当し、「コンテスト当日の各団体の演技時間帯の抽選」以外大半の活動はカルナヴァル開催半年前の2009年8月中にすでに終了している。一方、表の水色の枠内が後者に該当するのだが、こちらはカルナヴァル直前の2010年1月上旬から2月上旬にかけてのほぼ1ヵ月間に集中的に実施されている。この表からは、このコンテストの運営者である「当該実施本部」とそれに参加するカルナヴァル団体およびその統轄組織との間の審査基準および助成金に関わる〈調整〉、そして「当該実施本部」からコンテストの審査員およびそれを取材する報道関係者への専門知識の〈供与〉という二つの関係性が浮かび上がる。

表4には2010年のカルナヴァル団体のコンテストの概要をまとめた。このコンテストはそれに参加する団体のパレードを審査するもので、その目的は「レシーフェで活動するカルナヴァル団体の価値を高め強化すること」である旨がその実施規則^{注11)}の冒頭に記され

表3. カルナヴァル団体のコンテストに向けた準備活動

期 日	活 動 内 容
2009年8月10日、11日、12日、14日	コンテストの審査基準作成のための会合：()内の数字は参加団体数 ・10日：対象団体種別-T.Índio(7), Bois(7), Ursos(13) ・11日：対象団体種別-Maracatus B.V.(15), Maracatus B.S.(75) ・12日：対象団体種別-C.Frevo(11), C.Boneco(14), Troças(20), Blocos(8) ・14日：対象団体種別-Caboclinhos(31), E.Samba(18)
2009年8月19日	助成金の支給方法に関するカルナヴァル団体統轄組織との会合：7つの組織が参加
2009年8月24日から31日まで	コンテストへの参加登録：登録を行ったのは326団体
2009年12月4日 2010年1月6日	コンテスト当日の各団体の演技時間帯の抽選： ・12月4日：以下3つの序列集団-特別グループ、第1グループ、第2グループ ・1月6日：以下の序列集団-初出場グループ
2010年1月11日から15日まで	コンテストの審査員のための講習会への参加登録：レシーフェ市のウェブサイトでの周知に加え、電話や電子メールを使って呼びかけを行った。登録者は297名。
2010年1月25日から29日まで	コンテストの審査員のための講習会の開催：登録者を以下に記す審査項目別に5つの集団に振り分け、講習会終了後、4つのコンテスト会場で審査を担当する計50名が選抜された。審査項目-1) 衣装・装飾・山車、2) テーマ・筋書き、3) 音楽、4) 振付・展開、5) 登場人物。
2010年1月26日	カルナヴァル入門書(第3版)の発行：発行部数は650部。この冊子は、コンテストの審査員のための講習会やカルナヴァルを取材する報道関係者のための研修会で教材として用いられた。
2010年1月26日、27日、2月4日、10日	レシーフェのカルナヴァルを取材する報道関係者およびカルナヴァル会場の司会者のための研修会の開催：レシーフェ市文化局と報道局の共同作業 ・1月26日：対象-地元ベルナンブーコ州の報道関係者(参加者15名) ・1月27日：対象-グローボ(Globo)テレビ(参加者40名) ・2月4日：対象-カルナヴァル会場の司会者(参加者5名) ・2月10日：対象-レシーフェ市役所および州外からの報道関係者(参加者50名)

表4. カルナヴァル団体のコンテストの概要

目的	1) レシーフェで活動するカルナヴァル団体の価値の高揚およびその強化 2) コンテストにおける上位団体の表彰は、その活動のスペクタクル化に向けた動機づけ	
参加資格	後述するそれぞれの団体種別を統轄する組織への加盟の有無にかかわらず、カルナヴァル団体はコンテストに参加できる。	
助成金	申請条件	1) レシーフェ市内に本部を有するか否かによらず、本コンテストへの登録を行う場合 ・団体に関する所定の書類を提出すること ・前年のコンテストに参加し、規則上必要とされる最低点を獲得していること 2) 前年のコンテストに未参加だが、本部をレシーフェ市内に有し、以下の条件を満たす場合 ・レシーフェ市内に本部を5年以上有することを書類で証明できること ・過去にこの助成金の受領経験があること、または団体の創設から100年以上が経過していることを証明できること
	支給方法	2回に分けて支給する：1回目はカルナヴァルの開催前に、2回目は1回目の支給額に関する決算報告の提出、および当該団体のコンテストへの確実な参加の立証を条件に。
参加登録	期間	2009年8月24日から8月31日まで（場所はレシーフェ市役所）
	提出書類	団体の規約、現執行部の団体所有権を証明する書類、法人証明番号の登録証、団体代表者の身分証明書および納税者カードのコピー
	登録数	326団体
団体種別	コンテストは以下の11の団体種別ごとに行われる：Clubes de Frevo, Clubes de Boneco, Troças, Blocos de Pau e Corda, Maracatus de Baque Virado, Maracatus de Baque Solto, Caboclinhos, Tribos de Índio, Bois de Carnaval, Ursos, Escolas de Samba	
序列集団	1) コンテストは以下の4つの序列集団ごとに異なる会場で行われる：特別グループ（会場はAv.Nossa Senhora do Carmo）、第1グループ（会場はAv.Guararapes）、第2グループ（会場はPátio de Santa Cruz）、初出場グループ（会場はAv.do Forte） 2) それぞれの序列集団において下位2団体は降格し、上位2団体は昇格する。 3) 前年のコンテストを欠場または失格した団体は、それよりも1つ下の序列集団に位置づく。	
選抜方法	選抜期日	原則としてはそれぞれの期日に（ ）内に記した団体種別がコンテストを行う。 ・2010年2月14日（C.Frevo, Troças, Blocos, Maracatus B.V.） ・2010年2月15日（C.Boneco, Bois, E.Samba） ・2010年2月16日（Maracatus B.S., Caboclinhos, T.Índio, Ursos）
	選抜内容	初出場グループを除く3つの序列集団で優勝団体と準優勝団体を選抜して賞金を授与する。
審査方法	審査員	各コンテスト会場に10名前後の審査員が配置されて審査員会を結成する。それぞれの審査員は事前に割り振られた個別の審査項目を評価する。
	審査項目	団体種別ごとに（ ）内に記した数の審査項目があり、各項目は10点満点で評価される：C.Frevo (10)、C.Boneco (9)、Troças (9)、Blocos (9)、Maracatus B.V. (8)、Maracatus B.S. (12)、Caboclinhos (7)、T.Índio (9)、Bois (7)、Ursos (6)、E.Samba (9)
得点集計と結果発表	2010年2月18日（会場はレシーフェ地区のPraça do Arsenal）	
表彰	2010年2月20日（会場はレシーフェ地区のMarco Zero）。初出場グループを除く3つの序列集団の優勝および準優勝団体が演技を披露して賞金を授与される。	
賞金	・特別グループ：団体種別により優勝は10,000リアルまたは5,000リアル、準優勝はいずれもその半額 ・第1グループ：団体種別により優勝は5,000リアルまたは2,500リアル、準優勝はいずれもその半額 ・第2グループ：すべての団体種別で優勝は2,000リアル、準優勝は1,000リアル	

注) 2010年2月17日時点の為替相場（1米ドル≒1.83リアル、1米ドル≒90円）を基準にすれば、1リアルは約49円になる。

ている。このコンテストの審査基準を満たすだけの準備を整えるにはそれ相当の金銭的な裏付けが必要となるため、コンテストへの参加を表明し、かつ所定の条件を満たしているカルナヴァル団体に対してレシーフェ市は総額180万4,000リアル（およそ8,840万円）の助成金^{注12)}を支給している。またそれとは別に、コンテストで好成績を収めた団体には「当該実施本部」を通じて総額24万4,500リアル（およそ1,200万円）の賞金^{注13)}が授与された。レシーフェ市は上述の実施規則の中で賞金を伴う表彰の趣旨を「カルナヴァル団体の活動のスペクタクル化に向けた動機づけ」であると説明している。カルナヴァル団体の手に渡る助成金と賞金の合計額（1億40万円）は、レシーフェ市がその運営に計上したカルナヴァル予算のおよそ7.1%に相当する。

カルナヴァル団体のコンテストは、表4に記載した

11の団体種別ごとに行われる。また参加登録を行ったすべての団体はコンテストの実施にあたって特別グループ（Grupo Especial）を最上位とする四つの序列集団に分類され、序列集団ごとにコンテストを行う会場が異なる。2010年のコンテストには計326団体の参加登録があったが、表5には団体種別および序列集団ごとの参加登録数およびコンテスト当日の参加状況が記してある。表中の水色の部分は、その前年のコンテストの実績から割り出された実施規則上の出場団体数と実際の参加登録数の食い違いを示している^{注14)}。集団の序列が下がるほどこの食い違いの大きくなる傾向が見られるが、このことは総じて財政基盤が脆弱であると考えられる下位の序列集団に属する団体ほど連続して安定的にコンテストに参加することが難しい現状を示していると思われる。コンテスト当日の欠場数および失格数に関しても同様の背景を指摘することが可能

表5. コンテストへのカルナヴァル団体の登録および参加状況

団体種別	G.Espacial (特別グループ)		Grupo Um (第1グループ)		Grupo Dois (第2グループ)		G.Acesso (初出場グループ)	計
	実数	規則上	実数	規則上	実数	規則上	実数	実数
C.Frevo	7	7	8	8	3	10	3	21
C.Boneco	6	7	9	8	3	5	3	21
Troças	7	7	7	7	11	10	15	40
Blocos	6	5	3	5	1	10	4	14
Maracatus B.V.	7	7	5	5	2	10	10	24
Maracatus B.S.	6	6	16	17	32	32	34	88
Caboclinhos	6	7	10	10	11	10	12	39
T.Índio	4	4	2	5	0	5	5	11
Bois	6	6	4	5	4	5	4	18
Ursos	6	6	9	10	4	5	13	32
E.Samba	5	5	6	7	5	10	2	18
計	66	67	79	87	76	112	105	326
コンテスト当日の 欠場数/失格数	1/3		2/6		6/9		45/20	54/38

であろう。

次に11ある団体種別ごとのコンテストの審査基準に目を転じてみよう。紙幅が限られているため、ここではクルーベス・デ・フレイヴォ (Clubes de Frevo) という団体種別を例に挙げる (その概要を表6にまとめた)。1団体あたりの最少構成員数、演技制限時間、そしてオーケストラおよび踊り手^{注15)}の人数に関する規定はそれぞれの団体が所属する序列集団により異なる。この団体種別の場合、審査は10項目で行われ、そ

れぞれの項目が10点満点で評価される。上述した「カルナヴァルに先立つ三つのコンテスト」の対象の一つでもある団体旗運搬者 (Porta Estandarte) の衣装が事細かに規定されているのが目を引くが、それはすなわち、この団体種別のパレードにおいてこの人物が果たす役割の重要性を示すものであろう。

上述のように2010年のカルナヴァル団体のコンテストは序列集団ごとに異なる四つの会場で実施されたのを受け、カルナヴァル終了後にはそれぞれの会場の運

表6. 団体種別Clubes de Frevoの審査基準の概要

最少構成員数	特別グループ (100名)、第1グループ (80名)、第2グループ (60名)	
演技制限時間	特別グループ (30分)、第1グループ (20分)、第2グループ (15分)	
審査項目/得点	・仮装 (団体全体を通じて)	1点から10点
	・手にした装飾品 (団体全体を通じて)	1点から10点
	・振付け/展開/まとまり/興奮度 (団体全体を通じて)	1点から10点
	・主題の展開	1点から10点
	・団体旗運搬者 (ダンス/展開/衣装)	1点から10点
	・執行部 (衣装/展開)	1点から10点
	・貴婦人 (衣装/展開)	1点から10点
	・オーケストラ (調律/演奏/衣装) 特別グループ (20名以上)、第1グループ (15名以上)、第2グループ (10名以上)、 オーケストラは4曲以上の街頭のフレイヴォを演奏すること	1点から10点
	・パッソの踊り手 (ダンス/衣装/ソンプリーニャ) 特別グループ (15名以上)、第1グループ (10名以上)、第2グループ (8名以上)	1点から10点
	・踊り騒ぐ人々 (展開)	1点から10点
衣装の注意事項	・執行部—その団体を識別する衣装または仮装で団体の最前列を行進する。	
	・団体旗運搬者—ルイ15世風の衣装 (留め金付きの靴、長靴下、ひざ丈の膨らんだズボン、無地のシャツ、シャツの上にフリル状の胸飾り、ひざ丈の長袖の上着、リボンの飾り結びまたは巻き毛の付いたかつら) を着用する。	
	・花形—主題から外れた衣装で演技を行うことができる。	
減点対象	・オーケストラ—演奏者が規定の人数を下回った場合	1人下回るごとに-1点
	・パッソの踊り手—既定の人数を下回った場合 —不完全な形態の者がいた場合	1人下回るごとに-1点 1人につき-1点
	・団体旗運搬者の衣装に不備があった場合	-1点から-5点
	・構成員数—既定の人数を下回った場合	-5点
	・貴婦人—不在の場合	-5点
会場への入場禁止	団体旗およびオーケストラが不在の場合	
	失格	
失格	・構成員数が規定の半数に満たない場合	
	・演技の最中に、政治的な宣伝行為が行われた場合	
	・他の団体の仮装や装飾品を使用して演技を行った場合	
	・団体旗およびオーケストラが不在の場合	

営統括者が「当該実施本部」に実施報告書を提出している（表7に提出されたその概要をまとめた）。報告の内容は、会場の設備に関するもの、作業班に関するもの、そしてプログラム進行に関するものに大別できよう。表中の水色の部分はコンテストの実施に伴って発生した何らかの問題の指摘である。総じて評価の高かった項目として、音響設備、司会者、技術者、補助員そして清掃員を挙げることができる。一方、照明設備とトイレ、そして警備と医療に関する項目の評価が総じて低かった。またプログラム進行に関しては、本項の中ですでに言及したところであるが、特に下位の序列集団におけるコンテストへの欠場数や遅刻数の多さ、そして同一の団体種別の演技が長時間継続することに伴う審査員および観客の疲労感が問題点として指摘されている。

2. 3 「当該実施本部」財務報告

表8には「当該実施本部」の財務報告の概要をまとめた。総支出額589,491レアル（およそ2,890万円）はレシーフェ市が計上したカルナヴァル総予算2,900万レアルの2%余りに相当する。最大の支出は「カルナヴァル団体のコンテスト」に関するもの（333,861レアル）であり、内訳としては初出場グループを除く三つの序列集団の優勝および準優勝団体に授与される賞金（244,500レアル）がその大きな部分を占めている。それ以外では、各種コンテストに伴って審査員、外部作業班および内部作業班^{注16}に支給される人件費が主たる支出項目である。なおコンテストへの参加を前提としてカルナヴァル団体に支給される助成金はこの組織の財務報告には含まれていない。

表7. カルナヴァル団体のコンテストに関する各会場運営統括者による報告の概要

報告内容		特別グループ		第1グループ		第2グループ		初出場グループ	
		Av.Nossa Senhora do Carmo		Av.Guararapes		Pátio de Santa Cruz		Av.do Forte	
会場	照明	初日に電源装置の設置が遅れ、コンテストの開始を1時間40分遅らせた。	街灯のみで、専用の照明設備は使用しなかった。	照明が不十分であった。団体の集合場所の電気系統に不具合が発生し、ようやく最終日に復旧した。	設置された照明設備は会場全体を照らすには不十分であった。				
	音響	良好である。	素晴らしい。	問題なし。	概ね良好であった。				
	花道	問題なし。ただし演技の合間にほうきで清掃を行うべきである。	(記載なし)	使用せず。	(記載なし)				
	観覧席	問題なし。	審査員用は良好であったが、招待客用は仕上がりに不満が残る。	良好である。	概ね良好。ただし前方にひさしがなかったため、雨が吹き込んだ。				
	階段状の観客席	常に満員であった。初日に1人の男性がここから落ちて頭部をぶつけた。また最終日に1人の女性が床板の割れ目に落ちて軽傷を負った。	(記載なし)	使用せず。	地域コミュニティからの要望により設置された。形状、強度、位置ともに適切であった。				
	トイレ	設置されたが、設置業者による清掃が適切に行われたとは言い難い。	審査員用の観覧席のトイレがうまく維持されなかった。	外部の業者により適切に管理された。清掃員1名が配置されていた。	外部の業者が管理と清掃を行った。作業班用は清掃が行われなかった。				
作業班	規模	問題なし。	増員が必要	問題なし。	(記載なし)				
	司会	素晴らしい。	素晴らしい。	素晴らしい。	(記載なし)				
	技術	全員が協力して作業にあたった。	それぞれの領域で有能さを発揮した。	適切に業務を遂行した。	(記載なし)				
	補助	素晴らしい	素晴らしい	つつがなく業務を遂行した。	(記載なし)				
	警備	内部の補助員と外部の警備員が適切に対応したが、軍警察官および市警察官の増員は必要である。	警備のための要員はいないので、軍警察や市警察による警備を提案する。	軍警察と市警察が適切に対応したが、例年通り団体の集合場所付近で混乱が発生した。適切な交通規制が必要である。	警察は作業班、観客、団体に対して配慮を示したが、その対応は会場の活動時間より短かった。				
	清掃	外部の作業員が花道の終点到常態で待機していた。	外部の作業員が効率的に業務を遂行した。	良好である。	(記載なし)				
	医療	全く配慮がなされていなかった。上記階段状の観客席で発生した二つの事案にも適切に対応できなかった。	常駐する医療従事者は存在しないが、取り立てて問題は起こらなかった。	会場には何らの備えもなかった。とある団体の女性が気を失い、救急車を要請したが、全く対応がなされなかった。	(記載なし)				
プログラム進行	いくつか不測の事態が発生したにもかかわらず、概ね予定通り進行した。	順調にプログラムは遂行されたが、審査員や作業班が適宜食事を取るための時間の確保が難しい。	未登録の団体また異なる日時に到着した団体とコンテスト運営者との間でいくつかの軋轢が発生した。また同一種別の団体の演技が長時間連続することで、審査員と観客に疲労が生じた。	団体の欠場（45団体）や遅刻（13件）、また最終日の同一種別団体による長時間の演技が、観客をうんざりさせ、会場から遠ざけた。					
観客数（3日間）	約10,000人	約3,000人	約3,500人	約1,500人					

表8. コンテストならびに文化教育実施本部財務報告の概要

支出項目	内 訳 (数字の単位はレアル)	支出金額
カルナヴァルの王と女王のコンテスト	外部作業班 (13,700)、審査員 (10,000)、伴奏 (4,000)、司会者 (1,000)、賞金 (26,000)、食事 (8,680)、衣装制作 (14,900)、化粧 (3,000)、移動車両 (15,000)、オーケストラ (10,000)、車両賃貸 (2,880)、写真撮影 (1,500)、天幕 (5,650)、空調 (800)	117,110レアル
団体旗運搬者のコンテスト	外部作業班 (2,600)、審査員 (1,000)、伴奏 (5,000)、トロフィ (1,050)、賞金 (21,700)、食事 (1,200)	32,550レアル
パッソの踊り手のコンテスト	外部作業班 (5,300)、審査員 (1,500)、伴奏 (4,500)、トロフィ (780)、賞金 (11,100)、食事 (3,000)	26,180レアル
コンテストの審査員のための講習会	講師 (3,900)、講師補佐 (2,900)、助手 (300)、監督者 (700)、文字資料 (1,090)	8,890レアル
カルナヴァル入門書	出版 (7,910)	7,910レアル
カルナヴァル団体のコンテスト	外部作業班 (36,180)、審査員 (40,990)、食事 (7,900)、トロフィ (4,291)、賞金 (244,500)	333,861レアル
コンテスト全般の評価	軽食 (500)	500レアル
内部作業班	カルナヴァル団体のコンテスト (28,880)、審査員 (14,110)、審査員のための講習会およびコンテストの結果集計 (8,750)、王と女王のコンテスト (4,450)、団体旗運搬者のコンテスト (2,450)、パッソの踊り手のコンテスト (3,850)	62,490レアル
計		589,491レアル

注) 2010年2月17日時点の為替相場 (1米ドル≒1.83レアル、1米ドル≒90円) を基準にすれば、1レアルは約49円になる。

3. 問題の所在

第2項において、カルナヴァル関連行事の運営母体であるレシーフェ市の業務の一翼を担う「当該実施本部」が作成した2010年度活動報告書を手掛かりに、その活動実態の描出を試みた。「活動報告書」に記載の内容はレシーフェ市のカルナヴァルへの関わりのごく一部に過ぎないが、それをもってしても、経済的に肥大化したこの祝祭に同市が関わることで生ずる影響力の大きさの一端が垣間見えよう。そのようなカルナヴァルのあり様を踏まえ、当地の民衆芸能と深く関わる「当該実施本部」の活動に伏在と思われる以下三つの問題の所在を指摘したいと思う。ここではそれらを「民衆芸能のスペクタクル化」「カルナヴァル団体の主体性」そして「民衆芸能の次世代への継承」と項目立てした。

3. 1 民衆芸能のスペクタクル化

長年にわたってレシーフェのカルナヴァルを特徴づけてきた多様な民衆芸能を、コンテストという可視性と公共性を保証された時空間に集約することによってスペクタクル化しようとするレシーフェ市の意図は、コンテストで好成績を収めたカルナヴァル団体に賞金を授与して表彰することの意義に言及した上述の実施規則にも明らかである。ここで言う民衆芸能のスペクタクル化とは、それを見る側 (観客) の立場からより魅力あるものにするすることでその観光資源としての価値を高める目論見であるとも解釈できよう。前もって設定されたコンテスト会場に助成金で準備を整えたカルナヴァル団体を集約することで、集客性が高まり、結果として当地の民衆芸能の観光資源としての価値が増

大するというシナリオには一定の説得力があるように思われる。しかしながら、現実的にそのような想定通りの結果が得られているのか^{注17)} については改めて検証する必要がある。

他方、コンテストという形式を成立させるためには団体種別ごとに細かな審査基準を作成せねばならず、そのことに起因して民衆芸能が均質化あるいは標準化へと向かう可能性についても考慮する必要がある。このような視点に立てば、「当該実施本部」がコンテストの審査員およびカルナヴァルの取材に訪れる報道関係者を対象に行う上述の文化教育活動についても、つまるところ民衆芸能のスペクタクル化のみならず、その均質化や標準化を後押しする方向に作用する可能性を指摘しなければならない (残念ながら本研究ではこのような方向への民衆芸能の変容の是非について論ずるだけの余裕がない)。

3. 2 カルナヴァル団体の主体性

作成されたコンテストの審査基準にはカルナヴァル団体が遵守すべき規範としての強制力が伴う。一方、コンテストの審査員はカルナヴァル団体の外部から選出され、それぞれの団体種別の審査基準に則ってその演技を客観的に評価することを求められる。審査基準を作成する過程にカルナヴァル団体はどのように関与しているのだろうか。また彼らには、コンテストへの出場を通じて自らの活動がその意に反して外部から操作されることへの懸念は存在しないのだろうか。このような疑問は、民衆芸能の担い手としてのカルナヴァル団体の主体性に関わるが、本研究では「当該実施本部」が窓口となって2009年8月に開催されたコンテストの審査基準作成のための会合 (表3を参照のこ

と)に219のカルナヴァル団体が参加したという事実を確認するに留まっている。

この主体性の問題に関して言えば、筆者が以前「トロッサ・オ・インデセンテ (Troça O Indecente)」というカルナヴァル団体の主宰者に行った聞き取りが思い出される⁴⁾。この団体はレシーフェ市が開催するカルナヴァルのコンテストには参加せず、飽くまでもこの団体の地元の街路をパレードすることに固執していた。このようなカルナヴァルへの関わり方を、行政の主導による中央集約型のカルナヴァルに対比して「地域密着型のカルナヴァル」と表記してもよからう。この例に見られるように、すべてのカルナヴァル団体がレシーフェ市の意向に沿った形でコンテストへの参加を志向しているというわけではないのだが、一方で、コンテストに参加しなければ助成金は支給されないという現実が「地域密着型のカルナヴァル」の実現には大きな障害となっている状況^{注18)}も浮かび上がる。

数多くのカルナヴァル団体がいかなる理由でコンテストに参加するのか、参加することによって何が得られ何が失われるのか、コンテストの場でその主体性はいかにして確保されるのか。これらの疑問に対する回答を明示できるだけの根拠を筆者は持ち合わせていない。ただその回答を求めようと思えば、当事者たるカルナヴァル団体の率直な声に耳を傾ける地道な作業が欠かせないことをここでは指摘しておきたい。

3. 3 民衆芸能の次世代への継承

上述のように、レシーフェ市はカルナヴァル団体に対してコンテストへの参加を条件に助成金等の名目で少なからぬ公費を支給している。これは民衆芸能の継承母体としてのカルナヴァル団体の重要性を同市が十分に認識している証拠であると考えられるが、換言すれば、民衆芸能を次世代に継承するためにはもはや公的な財政支援が欠かせない現状を物語ってもいよう。筆者はかつてレシーフェ市が運営する「フレイヴォの市立学校 (Escola Municipal de Frevo)」の活動実践を小論⁵⁾にまとめたことがある。この学校は、ペルナンブーコの文化の保護に貢献することを目的に掲げて同市が1996年に設立したものであり、主にレシーフェ市民を対象にして無料でパッソというダンスの指導を行っている (パッソについては注8を参照のこと)。このような施設を公費で運営する姿勢にも、地元の民衆芸能の次世代への継承に向けた同市の明確な意思が読み取れよう。

現時点でその将来像を見通すことは困難であるが、コンテストへの参加を条件とする金銭の授受を媒介に

したレシーフェ市とカルナヴァル団体との関係性、あるいは「フレイヴォの市立学校」という教育施設において養成されたパッソの踊り手たちの存在が、今後の当地の民衆芸能のあり様に少なからぬ影響を及ぼす可能性は指摘できよう。そしてカルナヴァルに関連付けて「当該実施本部」が執り行う各種コンテスト (本研究では「カルナヴァルに先立つ三つのコンテスト」と総称した) について言えば、特に次世代の民衆芸能を担う青少年を動機づける機会として一定の肯定的な役割を果たしているように思われる。

4. おわりに

本研究は、2010年のカルナヴァル終了後に「当該実施本部」の手で作成された「活動報告書」を手掛かりにしてその活動実態を描出するとともに、それを通じて浮かび上がる問題の所在を指摘しようとする試みであった。

レシーフェのカルナヴァルに当地の伝統的な民衆芸能を欠かすことはできない。すでに経済的に肥大化したこの祝祭において、その継承母体であるカルナヴァル団体のパレードを観客にとってより魅力的なスペクタクルとしてコンテスト会場に集約することでその観光資源としての価値を増大させたいというのがレシーフェ市の本音ではなからうか。本研究ではカルナヴァルのコンテストはレシーフェ市とカルナヴァル団体との交渉を通じた合意に基づいて実施されているとの立場を取るが、それとともに、コンテストを実施するために必要な審査基準が強制力を伴う規範として機能することにより当地の民衆芸能が均質化あるいは標準化の方向へ変容する可能性についても言及した。

一方で、本研究には民衆芸能の担い手であるカルナヴァル団体の声は反映されておらず、そのため、彼らがいかなる理由でコンテストに参加し、そのような場でいかにして自らの主体性を確保するのかという疑問に回答を与えることはできなかった。そこでここでは以下のような可能性を指摘してこの小論を閉じることとしたい。すなわち、カルナヴァル団体の活動の場を年に一度のカルナヴァルのコンテストに限定する必要はないのではないかということである (もちろんそれは少なからぬ額の助成金が支給される重要な舞台には違ひなからう)。そしてそうであれば、そのことは彼らが活動の場に応じてその演技を使い分ける器用さを発揮する機会をも提供するように思われるのである。自らの立場は確保しつつ、周囲の状況にも適応できるだけの柔軟性を彼らが身につけているとは考えられな

いであろうか。もしこのような方向に論を展開できるのであれば、カルナヴァル団体とレシーフェ市との関係性を支配と従属の構図で把握しようとする一面的な見立て自体に困難があるように思われる。

注

注1) わが国では習慣的に「カーニバル」と表記されるが、本研究ではブラジルの公用語であるポルトガル語の発音に従って「カルナヴァル (Carnaval)」と表記する。

注2) ブラジル北東部バイア州の州都で2010年時点の人口は267万人余り。この地のカルナヴァルは市内の目抜き通りを舞台とした大規模な街頭行進を呼び物としている。

注3) 2010年2月17日時点の為替相場(1米ドル≒1.83リアル, 1米ドル≒90円)で計算した。リアル(real)はブラジルの現行通貨単位である。なお本研究におけるリアルから円への換算にはすべてこの数値を用いた。

注4) 本文で指摘した10数種類のカルナヴァル団体の街頭行進を総称してレシーフェでは「エスペタクロス・ポプラーレス (Espetáculos Populares)」という言葉(文字通りには民衆スペクタクルの意)が用いられるが、本研究ではこれに「民衆芸能」という訳語を充てた。

注5) この施設の所在地は、レシーフェ市サン・ジョゼ地区サン・ペドロ広場38番地(Pátio de São Pedro, No 38 - São José - Recife)である。

注6) カルナヴァルの王はこの祝祭期間中のレシーフェ市の統治者である。ポルトガル語でレイ・モモ(Rei Momo)と呼ばれるこの存在はギリシア神話で非難・皮肉・嘲笑を擬人化したモモス(Mómos)という神に由来し、ブラジルでは1933年のリオデジャネイロのカルナヴァルに統治者として登場したのを嚆矢とする。2010年2月12日(金)にレシーフェ市が主催した開会式では、同市長からカルナヴァルの王に統治の移譲を象徴する「レシーフェ市の鍵」が引き渡された。

注7) カルナヴァル団体はそれぞれ固有の団体旗を所持しており、街頭行進においてはそれを周囲に誇示しながら運搬する。団体旗の運搬者はポルタ・エスタンダルテ(Porta Estandarte)あるいはポルタ・バンデイラ(Porta Bandeira)と呼ばれる。

注8) レシーフェにはフレーヴォ(Frevo)という軽快な音楽に合わせて踊られるパッソ(Passo)という民衆的なダンスがあり、その踊り手はパシスタ(Passista)と呼ばれる。今日のパシスタは小型の傘(Sombrinha)を手に演技を行う。

注9) 650部作成されたこの小冊子は、カルナヴァル団体のコンテストの審査員のための講習会、そしてカルナヴァルの

取材に訪れる報道関係者およびカルナヴァル会場の司会者のための研修会において教材として用いられた。

注10) 2010年の場合には選抜された王と女王に対し、コンテストの翌日からおよそ1ヵ月間にわたって72のカルナヴァル関連行事への参加が要請されている。

注11) 2009年8月26日に公表された実施規則には、コンテストの目的に加えて、参加資格、参加登録方法、コンテスト実施方法、審査方法、表彰方法などが記されている。

注12) 助成金は後述する序列集団ごとにその金額が異なり、特別グループ(Grupo Especial)では1団体あたり12,000リアル(およそ588,000円)、第1グループ(Grupo Um)では1団体あたり8,000リアル(およそ329,000円)そして第2グループ(Grupo Dois)では1団体あたり5,000リアル(およそ245,000円)が支給された。なお2010年に創設された初出場グループ(Grupo de Acesso)という序列集団には助成金は支給されなかった。

注13) 助成金と同様に初出場グループには賞金も授与されなかった。

注14) 最下位の序列集団である初出場グループには実施規則上の出場団体数は規定されていない。

注15) オーケストラはフレーヴォという音楽を演奏し、踊り手はパッソというダンスを踊る(注8を参照のこと)。

注16) 「当該実施本部」の構成員が作業に関わる場合を「内部作業班」、また同本部が外部に業務委託する場合を「外部作業班」と表記している。

注17) 表7にはコンテストの行われた3日間に4つの会場へ足を運んだ観客数が示してある(特別グループ-10,000人, 第1グループ-3,000人, 第2グループ-3,500人, そして初出場グループ-1,500人)が、これらの数字にはコンテストに出場する団体の関係者が応援団として含まれている可能性もあり、外部の観客に向けた魅力ある観光資源という脈絡でこの観客数を評価するには慎重さが求められる。

注18) 実際のところ、資金不足のためにトロッサ・オ・インデセンテの街頭行進は2009年から2012年までの4年間行われなかった。

引用および参考資料

- 1) 総務省統計研修所(編)(2012)『世界の統計2012』東京: 一般財団法人日本統計協会 p.43.
- 2) 荒井芳廣「レシーフェのカルナヴァルと黒人フォークロアの形成」, 中牧弘允(編)(1992)『陶醉する文化-中南米の宗教と社会』東京: 平凡社 p.88.
- 3) レシーフェ市役所のウェブサイトにて2010年2月17日付で掲載された2010年のカルナヴァルの総合評価 (<http://www.>

recife.pe.gov.br/noticias/arquivos/2037.pdf)。

- 4) 拙稿 (2013) 「民衆芸能フレーヴォの継承に向けた取り組みー『パッソの戦士たちプロジェクト』についての事例研究」東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系 65:161-170.
- 5) 拙稿 (2008) 「学校における民衆芸能の活動実践ーフレーヴォの市立学校についての事例研究」東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系 60:161-168.